

# しらおか歴史物知りシート

No.4-2

こもれびの森・歴史資料展示室

**【白岡市合併史】** 明治時代になると、中央集権型の政治の推進とともに、地方制度の整備も進みました。江戸時代の「藩」は廃され「県」が置かれます。さらに、「町・村」のあり方もよりよい制度を求め目まぐるしく変化しました。こうした制度の変化の中から現在の白岡市が成立しました。その流れを年表にまとめました。

## (1) 埼玉県 の 成立 過程

年・月	項目	摘要
慶応4. 閏4	「政体書」の公布	<b>府・藩・県3種類の行政区</b> の設置（三治制） 府・県には知府事、知県事がおかれ、藩は諸侯が治める
明治2. 6	版籍奉還	版 → 領地、籍 → 人民 土地と民は朝廷に帰属、藩は行政機関となる
4. 7	廃藩置県	現在の県域に本拠を持つ藩県 → <b>浦和県、忍藩、岩槻藩、川越藩</b> 品川県、小菅県、蕨山県、岩鼻県など9藩県 この他、高崎藩、古河藩、関宿藩、半原藩、前橋藩など13藩 合計22藩県（飛び地がたくさんあった）
4. 11	諸県の合併促進 埼玉県の名称誕生	全国3府302県 → 3府72県に統合 浦和・岩槻・忍 3県を廃し <b>埼玉県</b> 、川越県を廃し <b>入間県</b> となる
6. 6	県域・県名変更	入間県・群馬県が合併して <b>熊谷県</b> となる
8. 8	県域変更	千葉県管下下総国葛飾郡金杉村他42か村埼玉県へ移管
8. 10	県域変更	埼玉県足立郡舎人町を東京府へ移管
9. 8	埼玉県域ほぼ確定	熊谷県を廃し同県の武蔵国分を埼玉県に合併

## (2) 白岡市 の 成立 過程

年・月	項目	摘要
明治初期	市域の町村数 町村組合	江戸時代の村落とほぼ同じ17村 町村の規模、仕組の不統一 浦和県 → 管下の町村30~40毎に組合を作らせた。埼玉郡下に9組合あり「 <b>篠津組合</b> 」の名称が見える。
明治4. 4	戸籍法制定	全国で一斉実施
5	「壬申戸籍」作成	
5. 3	戸籍区の設置 (第1図)	埼玉県 → 管内を24の大区に分ける(その下に小区が置かれたが6年6月廃止) 第5区 粕壁宿グループ 彦兵衛新田、太田新井村、爪田ヶ谷村、岡泉村 第6区 杉戸宿グループ 高岩村、上野田村、下野田村 第9区 久喜町グループ 小久喜村、野牛村、寺塚村、白岡村、篠津村 第18区 菖蒲・桶川宿グループ 柴山村、荒井新田村、下大崎村 第20区 岩槻町グループ 実ヶ谷村、千駄野村
5. 4		旧来の「村」の行政単位としての性格の低下を招く 旧来の村の行政体としての機能回復を図る
11. 7	戸籍区を行政区に変更	埼玉県では区を廃して新たに9郡を置く <b>南埼玉郡の成立</b> 郡役所は岩槻町
12. 3	郡区町村編制法	自治能力の低い小規模町村を連合させ官選戸長を置く
16		500戸を基準に学区、水利組合等を勘案して実施
17	連合戸長制の実施 埼玉県での連合戸長制の実施 (第2図)	岡泉村連合戸長役場区域 上野田村、下野田村、彦兵衛新田、太田新井村、千駄野村、実ヶ谷村、岡泉村 東条原村連合戸長役場区域 爪田ヶ谷村 北青柳村連合戸長役場区域 高岩村

年・月	項目	摘要
明治 21 22. 4	市制・町村制 <b>篠津村の成立</b>	篠津村連合戸長役場区域 野牛村、寺塚村、小久喜村、白岡村、篠津村 上平野村連合戸長役場区域 柴山村、荒井新田村、 上大崎村連合戸長役場区域 下大崎村 300戸～500戸を標準として町村合併の計画を立案 南埼玉郡長の諮問(明治 21. 7) 篠津、野牛、白岡、寺塚の 4 村で篠津村。高岩村は北青柳村連合との合併を諮問されていたが反発、高岩、野牛、太田袋、寺塚の 4 村で合併したい旨を上申。しかし野牛、太田袋、寺塚の 3 村が高岩案に強く反対。結果的に地形や立地条件等を勘案し篠津、野牛、白岡、寺塚の 4 村に高岩を加え 5 村で篠津村とした。「篠津村」の村名は旧篠津村が他の 4 村より大きく、中心となり得ることから。
28. 2	<b>大山村の成立</b>	南埼玉郡長の諮問(明治 21. 7) 柴山、荒井新田、上大崎、下大崎の 4 村で「柴山村」。上大崎、下大崎は新村の名称を「大崎村」とするよう希望。郡長は再検討し折衷案として「大山村」案を示し円満に解決。
28. 2	<b>日勝村の成立</b>	南埼玉郡長の諮問(明治 21. 7) 岡泉、千駄野、実ヶ谷、彦兵衛、太田新井、上野田、下野田、爪田ヶ谷、小久喜の 9 村で新村造成。協議の折り合いがつかず、「岡泉村外 8 か村組合」として町村組合を作成。(この時彦兵衛新田は彦兵衛村に改称) 明治 28 年になって 9 村合併。村名「日勝村」は日清戦争の勝利を記念して命名。
昭和 28. 9 29. 2	町村合併促進法制定 町村合併促進対策に関する答申	<b>「昭和の市町村合併」始まる</b> 県町村合併促進審議会 合併試案 314 町村→73 町村に 試案では、篠津、日勝 2 村 菖蒲町、大山、小林、三箇、平野、栢間 6 村 篠津、日勝はさらに周辺町村に呼びかけた。大山村は昔から水利関係を通じて密接な関係に有ったので呼びかけに応じた。
29. 7 29. 9	新町の枠組み定まる <b>白岡町誕生</b>	「日勝、篠津、大山合併促進協力会」発足 日勝村、篠津村、大山村(柴山、荒井新田、下大崎)合併。結果的に上大崎は菖蒲と合併した。新町の名称は国鉄東北本線「白岡駅」を中心とする発展を期待してのもの。